

「念仏・和讃」データベースと eラーニングの構築 —その2

遠 山 和 大
黒 田 義 道
深 見 友紀子
赤 羽 美 希

I. はじめに

「念仏・和讃」は、浄土真宗（真宗）各派¹⁾の寺院および門徒の間で日常的に行われている勤行で用いられ、「正信念仏偈（以下、正信偈）」に引き続いて読誦される場合が多い。

「念仏」は「南無阿弥陀仏」に旋律を付したもので、「和讃」は仏や先人の高僧などを讃える和語の歌に旋律を付したものである。そのテキスト（歌詞）には、親鸞が著した『浄土和讃』・『高僧和讃』・『正像末和讃』に含まれる歌が用いられる（高田派では、『皇太子聖徳奉讃』も用いられる）。これらは仏教音楽の一種である声明ということができよう。

「念仏・和讃」の旋律は宗派によって差異が見られ、歴史的には、勤行を行う場面（法要）にあわせて数多くの旋律が存在していたようだが、時代とともに整理されてきた。現代では各派1～8種類程度の旋律が定められ、勤行を行う場面によって使い分けがなされている。これらを読誦する際の作法も宗派や法要の内容によって異なる。また、通常の勤行では「念仏・和讃」に引き続き、「回向（回向文）」と呼ばれる偈文も読誦される。この偈文にも各派独自の旋律が定められている。

各派の旋律に差異があること自体は、各派の僧侶や門徒の間でも広く知られているものの、自身が所属する宗派以外で用いられている旋律がどのようなも

のなのかを具体的に知る機会は少なく、一般的にアクセスできる資料中にそれらの旋律が示された例は皆無であろう。学術的な研究の側面においては、和讃について様々な研究²⁾が行われているが、各派の旋律を比較する研究は、筆者らの知る限りにおいてこれまで行われておらず、ましてや、その旋律のデータベース化も行われていない。

宗派によって声明の旋律が異なる点に興味を持った筆者らは、2014-2015年度に真宗各派「正信偈」の旋律の採譜とデータベース化に関する研究を行い³⁾⁴⁾、各派「正信偈」の楽譜および音声データを『正信偈データベース』としてウェブ上に公開した⁵⁾。2016年度には、本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・本辺派の5派について、「念仏・和讃」と「回向」の旋律を収集し、五線譜化を行った⁶⁾。

本研究では2016年度に引き続き、誠照寺派（本山誠照寺）・三門徒派（本山専照寺）・出雲路派（本山毫摂寺）・山元派（本山證誠寺）・高田派（本山専修寺）の5派の「念仏・和讃」「回向」について以下の作業を行った。

1. 各派における「念仏・和讃」「回向」の旋律を収集する。
2. 収録した旋律を西洋音楽における一般的な記譜ルールに基づいて五線譜上に採譜する。
3. 収集した音声および作成した楽譜、解説等をデータベース化してweb上に公開する。

以上を通じて得られた結果から、各派ごとの旋律の差異を明らかにするだけでなく、作成されるデータベースは、eラーニングの教材として、本学など浄土真宗系学校の学生や、家庭で勤行の練習を行う一般門徒、浄土真宗各派の僧侶など、声明に関心をもつ人々が活用できるであろう。

II. 旋律の収集

本研究では、昨年度の先行研究にならない、各派で用いられている「念仏・和讃」および「回向」の旋律のうち、寺院だけではなく門徒一般の間で日常的に最もよく使用されていると考えられる旋律、具体的には、各派が門徒向けに制作したCD⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾に収められている旋律を収集の対象とした。

こうしたCDは、各派本山において主に門徒を対象として頒布されているものであり、一般的にはほとんど流通していない。したがって、本研究で収集した各派の「念仏・和讃」の旋律は、これまで各派の僧侶や門徒の間以外ではほとんど知られてこなかっただけに、貴重な資料となった。

但し、山元派に関しては、2015年度の研究で既に採譜を行った真宗大谷派と同一の旋律による「念仏・和讃」および「回向」が用いられていた¹¹⁾。このため、本稿では高田派・誠照寺派・三門徒派・出雲路派の4派の旋律について述べることとする。

収集された4派の旋律はいずれも、それぞれが独自の節回しを持つものであった。

4派のうち、誠照寺派¹²⁾・三門徒派¹³⁾・出雲路派¹⁴⁾の勤行においては、「正信偈」ののちに、「念仏・和讃」、「回向」の順で読誦される。「念仏・和讃」を読誦する際には、数回の「念仏」と1～3首の「和讃」が交互に読誦されるものを1セットとして、これを1～3セット読誦する場合が多い。そして、例えば3セットを読誦する場合は、最初の1セットを「初重」、2セット目を「二重」、3セット目を「三重」のように呼び、最も低い音程の「初重」から高い音程の「三重」にかけ、音程を上げながら読誦するという形態を取る。

なお、「和讃」には膨大な首数がある上、各「和讃」によって旋律が異なる場合もあり、その全てを収集することは非常に困難である。誠照寺派・三門徒派・出雲路派では『浄土和讃』の「弥陀成仏のこのかたは」からの6首が、代表的な例として経本およびCDに収録されており、本稿ではそれらを対象とし

た。また、これら3派の経本・CDに収録されている「回向」の偈文は、「願
以此功德 平等施一切 同発菩提心 往生安楽国」(善導撰述『観無量寿経疏』)
であった。

高田派¹⁵⁾の日常的な勤行では、朝と夕で差定が異なり、それぞれ以下の順に
読誦される。本稿では、これらのうち「和讃」と「短念仏」・「回向文」の旋律
を扱うこととする。

朝：歎仏偈—正信偈—和讃—短念仏—回向文—御書

夕：重誓偈—文類偈—和讃—短念仏—回向文—御書

高田派では、『高僧和讃』の「釈迦の教法おおけれど」からの5首が、「朝の
おつとめ」の例として経本およびCDに収録されていた。また、CDに収録さ
れていた「回向文」の偈文は、「朝のおつとめ」では「世尊我一心 帰命尽十
方 無碍光如来 願生安楽国」(天親撰述『浄土論』)、「夕のおつとめ」では「願
以此功德 平等施一切 同発菩提心 往生安楽国」であった。

以上のようにして収集された、4派の「念仏・和讃」の経本における冒頭部
分を資料1に示す。

資料1 本研究で取り上げた4派(誠照寺派・三門徒派・出雲路派・高田派)の、
「念仏・和讃」の経本。誠照寺派・三門徒派・出雲路派は、冒頭に読誦される「念
仏」から「和讃」の一首目までを示した。テキストの右側に、声明で用いられ
る一種の楽譜である「博士(はかせ)」¹⁶⁾が記入されている。高田派は、「和讃」
の一首目と「短念仏」を示した。

三門徒派¹³⁾

37

出雲路派¹⁴⁾

○ 初重
調声

南 な 一
無 じ 一
阿 あ 一
彌 み 一
陀 だ 二
佛 ぶ 二

同音
南 な 一
無 じ 一
阿 あ 一
彌 み 一。
陀 だ ㄨ
佛 ぶ ㄨ

南な無む阿あ彌み陀だ佛ぶつ

南な無む阿あ彌み陀だ

〈常用和讃〉

○ 彌陀成佛のこのかたは

同音
いまに十劫じゅうきやうをへたまへり

法ほふ身みの光みつ輪りんききははももなくなく

世せの盲冥もうみょうをてらすなり

高田派¹⁵⁾

一釈迦しやかの教法きやうほうとおおけれど

天親菩薩はねんごろに

煩惱成就のわれらには

彌陀の弘誓をすすめしむ

短念佛

なまーんだーんぶー

なーんまーんだーんぶ

なーんまーんだーんぶ

な—も あ み だ—

Ⅲ. 旋律の楽譜化

従来、「念仏・和讃」などの声明は口伝によって後世に伝授されてきた。声明には、いわゆる楽譜に相当する、「博士」と呼ばれる記号があり、資料1で示した各「念仏・和讃」のテキストにも、各派で用いられている「博士」が記されているものが見られる。しかし、これらの「博士」は、現代の概念という楽譜とは異なり、あくまでも参考として記入されているものである。したがって音高や音価¹⁷⁾を厳密に表現したものではない。また、少なくとも現代においては、これらの博士を「読譜」すること自体が一般的ではなく、「念仏・和讃」に親しもうとする人たちが「念仏・和讃」のテキストを見たとしても、具体的に旋律をイメージすることは非常に困難であろう。

声明は口伝によって継承されるものであるため、「念仏・和讃」などの旋律も優れた指導者による直接の指導によって習得することが望ましい。しかし一方で、宗教教育における学習や、一般門徒が家庭で勤行の練習を行う上では、より多くの人が親しめる方法で旋律を記述する必要もあると思われる。

このため、筆者らは「念仏・和讃」などの音源を収集するだけでなく、旋律を西洋音楽における一般的な記譜ルールに基づいて五線譜に採譜した。採譜は、筆者の一人である赤羽が担当した。

「正信偈」の場合と同様に、「念仏・和讃」などの旋律を楽譜化した例は過去にも存在するが、音楽の専門家の手を経ずに楽譜化されたものが多く、またそうした楽譜の多くは各派の内部資料として作成されたものであり、一般的にアクセスできないものである。さらに、複数の宗派にわたって楽譜を作成した例は、筆者らの知る限り皆無である。

IV. 記譜法の改善

記譜にあたっては、収集された音源を可能な限り忠実に五線譜上に記譜するように心がけ、その一方で、現代の音楽で用いられる、きわめて複雑な記譜法に頼ることなく、必ずしも楽譜を読むことに慣れていない人たちでも容易に読譜可能な楽譜となるように配慮した。

その際、研究を進める過程で入手することができた、声明の楽譜化についての先行研究文献である栗山明憲・小泉文夫編『新義真言集成 楽譜篇第一卷 二箇法要集（上）』¹⁸⁾及び、真言宗豊山派仏教青年会出版委員会編『新義真言集成 楽譜篇第二卷 二箇法要集（下）』¹⁹⁾を参考にした。これらは、浄土真宗とは異なる宗派の声明に関する研究ではあるものの、声明を五線譜化するときの記譜法に関する重要な視点を数多く提供している。例えば、音高・テンポ・音の長短や強弱・リズム・音色・声の技法・歌詞の表記などについての記譜ルールが提案されているなど、声明の旋律を西洋音楽のルールを前提とした五線譜に記譜する上で、非常に大きな示唆を与えられるものであった。

その中で、特に筆者らが注目したのは、記譜を行う際の符尾の連桁²⁰⁾に関する表記である。これまでに筆者らが行ってきた研究において作成した楽譜では、4分音符単位で符尾を連桁していた。また、前述の『新義真言集成 楽譜篇第一卷 二箇法要集（上）』（p. 46）においても、「従来の楽譜に、よく、音韻がかわるごとに符桁を分ける書き方が行われているが、ここでは特にその必要がないばかりでなく、かえって譜面を読みにくくするので、そのような音韻ごとの区別は行わない。」と述べられている。

その一方で、少なくとも本研究で扱った浄土真宗の声明においては、その旋律に一定の拍子があるわけではなく、経文の文字数に合わせて音楽が進行するため、符尾の連桁のルールを拍単位で定めてしまうと、言葉のまとまりが感じられない楽譜になってしまう。

こうしたジレンマの中で、「必ずしも楽譜を読むことに慣れていない人たち

でも、容易に読譜可能な楽譜を作成する」という観点も考慮しつつ、楽譜表記についての再考を行った結果、「原則として1つの音韻に対して、1つの音符を単独で記譜し、符尾の連桁はせず、同じ音韻を伸ばす音についてのみ部分的に連桁を含めるべきである」という、新たな記譜法のルールを結論するに至った。

以上の工程から得られた楽譜の一部を資料2に示す。

資料2 本研究において作成した、誠照寺派・三門徒派・出雲路派・高田派の楽譜。誠照寺派・三門徒派・出雲路派の楽譜は、最初の念仏と和讃「弥陀成仏のこのかたは」の冒頭部分。高田派の楽譜は、和讃「釈迦の教法おおけれど」および「短念仏」のそれぞれ冒頭部分。

誠照寺派

$\text{♩} = \text{ca. } 30$

Solo

な む あ み だ ぶ

Tutti

な む - あ み だ - - - ぶ -

Solo

な む - あ み だ ぶ

Solo

み だ じょう ぶ つ の - - - この か た は - - -

$\text{♩} = \text{ca. } 30$

Tutti

い ま に - - - じつ こ う を - - - へ - た - ま - - え り

$\text{♩} = \text{ca. } 35$

ほつ し ん の - - - こ う り ん - - - き - わ - も - - - な く

せ の - - - もう みよう を - - - て ら す - - - な り

な - む - あ み だ - - - ぶ -

三門徒派

$\text{♩} = \text{ca. } 55$
Solo

poco V poco V 鐘 V

な む あ み だ ぶ

Tutti poco ($\text{♩} = \text{ca. } 58$) V poco poco

な む あ み だ ぶ

V V V poco V

な む あ み だ ぶ

V poco poco

な む あ あ み だ ぶ

V V V poco V

な あ む あ み だ ぶ な む

$\text{♩} = \text{ca. } 55$ poco poco
Solo

み だ じょう ぶ の こ の か た は

$\text{♩} = \text{ca. } 40$ accel. $\text{♩} = \text{ca. } 50$
Tutti

V V V V

い ま に じっ こう へ た ま え り

V V V

ほ っ し い ん の こ う り ん き わ も な く

出雲路派

$\text{♩} = \text{ca. } 40$
Solo

な む あ み だ ぶ

Tutti

な む あ み だ ぶ

な む あ み だ ぶ

na poco rit. ぶ

Solo poco

み だ じょう ぶ の こ の か た は

Tutti accel. $\text{♩} = \text{ca. } 45$

い ま に じっ こう を へ た ま え り

ほっ し ん の こう り ん き わ も な く

せ の もう みよう を て ら す な り

高田派 (和讃)

♩ = ca.35
poco

鐘

Solo

しゃかのきょうほうおおけれど

Tutti

ノてんじんぼさったねんごろに――

ぼんのうじょうーじゅのわれらーには――

みだのくぜいすすめしむ――

高田派 (短念仏)

♩ = ca.30
Solo

なまんだんぶ

poco

Tutti

accel.

なまんだんぶ

♩ = ca.35

なまんだんぶ

♩ = ca.30

なもあみだ

V.『念仏・和讃・回向データベース』への編入

こうして得られた楽譜と音声は、昨年度より制作している web コンテンツである『念仏・和讃・回向データベース』に追加され、インターネット上で公開される予定である（資料3）。音声に関しては、著作権の関係上ダウンロードができないよう、ストリーミング方式による配信を行う計画で、各派ともCDに録音された音声を公開する許諾を得ている。

資料3 本研究で扱った4派が追加された『念仏・和讃・回向データベース』の表紙。

念仏・和讃・回向データベース

本願寺派

大谷派

佛光寺派

興正派

木辺派

真宗高田派

真宗出雲路派

真宗誠照寺派

真宗三門徒派

真宗山元派

制作・協力

研究者
京都女子大学教授 深見友紀子
京都女子大学元教授 野村伸夫
京都女子大学准教授 黒田義道
富山大学講師 遠山和夫

採譜
浄書
校閲
東京音楽大学・和洋女子大学講師 赤羽美希
京都芸術大学講師 丸岡加奈子
国立音楽大学准教授 井上郷子
東京音楽大学・和洋女子大学非常勤講師 赤羽美希

ウェブ制作 杉山裕康

念仏・和讃・回向
データベース

真宗各派の「念仏・和讃」データベースとeラーニングの構築～その2
京都女子大学 宗教・文化研究所研究助成
研究代表者 京都女子大学准教授 黒田義道
研究協力者 京都女子大学教授 深見友紀子 富山大学講師 遠山和夫 東京音楽大学・和洋女子大学非常勤講師 赤羽美希

現在のところ、この web コンテンツは一般には公開されていないが、京都女子大学宗教・文化研究所の web サイトにおいて公開される予定になっており、既に公開されている『正信偈データベース』と合わせ、浄土真宗各派における日常勤行の、これまでに類を見ない e ラーニング教材となるだろう。

VI. まとめ

浄土真宗の誠照寺派・三門徒派・出雲路派・高田派（および山元派）の各派において、日常的に多く用いられている「念仏・和讃」および「回向」の旋律を収集することができた。このことにより、ほぼこれまで各派に所属する僧侶や門徒の間でのみ知られてきた、各派の「念仏・和讃」および「回向」の旋律が明らかとなった。また、それらの旋律を西洋の音楽において一般的に使用されている記譜法で楽譜化することで、「念仏・和讃」および「回向」の学習を行う上で容易に親しめる参考資料を作成することができたといえよう。

こうして得られた音声および楽譜は web コンテンツとして公開する予定であり、浄土真宗の声明に関心を持つ多くの人に向けた e-Learning 教材として活用されることが期待される。

また、本研究では、日常的に用いられる旋律のみをその対象として扱ってきたが、実際にはここで取り上げた以外の、多くの旋律も伝承されている。今後、各派の旋律をさらに多く収集・採譜することで、データベースをより充実させていくことも望まれよう。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、各派本山の担当者の皆様には、インタビューおよび資料の収集にご協力をいただいた。また、真言宗豊山派仏教青年会より、声明の記譜を行う上できわめて有益な参考となる資料を提供いただいた。さらに金信昌樹氏（高田短期大学講師・真宗高田派善昌寺住職）には高田派の歴史や勤式等についてご教示いただいた。ここに記して感謝の意を表する。

注

- 1) 浄土真宗（真宗）系の仏教教派は多岐にわたるが、本稿では、真宗教団連合に所属する「真宗10派」について取り上げる。真宗10派とその本山は以下の通りである。
 - a. 浄土真宗本願寺派、本願寺（西本願寺；京都市）
 - b. 真宗大谷派、真宗本廟（東本願寺；京都市）
 - c. 真宗高田派、専修寺（津市）
 - d. 真宗佛光寺派、佛光寺（京都市）
 - e. 真宗興正派、興正寺（京都市）
 - f. 真宗木辺派、錦織寺（野洲市）
 - g. 真宗出雲路派、毫摂寺（越前市）
 - h. 真宗誠照寺派、誠照寺（鯖江市）
 - i. 真宗三門徒派、専照寺（福井市）
 - j. 真宗山元派、證誠寺（鯖江市）
- 2) 例えば以下のものが挙げられる。
 - a. 多屋頼俊（1933）和讃史概説，法蔵館，338pp.
 - b. 出雲路英淳（1999）『三帖和讃』の読誦について，札幌大谷短期大学紀要 30，11-23.
- 3) 深見友紀子・遠山和大・赤羽美希（2015）「正信念仏偈」データベースとeラーニングの構築（その1）五線譜化へのプロセス～その1，京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要，（28），43-61.
- 4) 深見友紀子・黒田義道・遠山和大・赤羽美希（2016）「正信念仏偈」データベースとeラーニングの構築（その2）越前4派の旋律収集と楽譜化，京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要，（29），61-74.
- 5) 京都女子大学宗教・文化研究所（2016）正信念仏偈データベース，<http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/shisetsu/shukyo/db.html>，2016年9月2日閲覧。
- 6) 遠山和大・黒田義道・深見友紀子・赤羽美希（2017）「念仏・和讃」データベースとeラーニングの構築—その1，京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要，（30），31-48.
- 7) 本山誠照寺法式委員会（2011）親鸞聖人750回御遠忌記念 真宗誠照寺派勤行CD，誠照寺.
- 8) 真宗三門徒派宗務所式務部監修・読誦（発行年不明）真宗三門徒派門徒勤行集CD，真宗三門徒派宗務所式務部.
- 9) 真宗出雲路派宗務所（発行年不明）常用勤行CD，真宗出雲路派宗務所.
- 10) 開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会事務局（2012）真宗高田派在家勤行，開山

聖人七百五十回遠忌報恩大法会事務局.

- 11) 真宗山元派 (2013) 同朋勤行集, 真宗山元派宗務所護法会, 123pp.
- 12) 真宗誠照寺派宗務所 (2013) 真宗誠照寺派勤行聖典, 真宗誠照寺派宗務所, 164pp.
- 13) 真宗三門徒派式務部監修 (2008) 真宗三門徒派在家勤行集, 永田文昌堂, 200pp.
- 14) 真宗出雲路派勤行集編纂委員会編 (2013) 真宗出雲路派常用勤行集, 真宗出雲路派宗務所, 143pp.
- 15) 生柳光寿 (2005) 高田勤行聖典, 真宗高田派宗務院, 311pp.
- 16) 「墨譜」とも呼ばれる。
- 17) 音価は、音や休止の時間的な長さのこと。音高は、音の高さのこと。
- 18) 栗山明憲・小泉文夫 (1998) 新義真言声明集成 楽譜篇第一巻 二箇法要集 (上) 増補再刊, 真言宗豊山派仏教青年会.
- 19) 真言宗豊山派仏教青年会出版委員会 (1998) 新義真言声明集成 楽譜篇第二巻 二箇法要集 (下), 真言宗豊山派仏教青年会.
- 20) 音符の「旗」の部分を「符尾」と呼ぶ。また、複数の音符の符尾を連結した「符桁」と呼ばれる横棒で、複数の音符をつなぐことを「連桁」と呼ぶ。

<キーワード>

浄土真宗 仏教声明 正信偈 念仏和讃 eラーニング 五線譜